

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年2月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503544		
法人名	株式会社 愛光園		
事業所名	グループホーム バラの家		
所在地	福山市沖野上町1丁目3番11号		
自己評価作成日	2011.1.13	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471503544&amp;SCD=320">http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471503544&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成23年2月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケアの研修、様々な研修に常勤非常勤問わず職員が参加し向上する機会を毎月実行している。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ると、まず、「入居者の思いと尊厳を大切に、明るい笑顔でゆとりを持って接しましょう」という基本理念が目に入る。この理念はスタッフが皆で相談して作ったものであり、介護をするうえで心の支えとなっている。入居者の気持ちを考え本人が安心して穏やかな生活が送れるよう、すぐに援助が出来るよう心掛けている。また、24時間医療連携により、看取りが可能なことは家族の安心にもつながっている。
--

グループホーム バラの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「入居者の想いと尊厳を大切にし明るい笑顔でゆとりを持って接しましょう」の理念を玄関に掲げ職員が毎日唱和し一丸となり利用者本位の暮らしが出来るように取り組んでいる	理念をみんなで作り、玄関に掲げ、毎日唱和し、目配り、気配りを忘れずに介護するよう心掛けている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内清掃行事に参加し、散歩時に地元の方々との会話や触れ合いで交流を深めている	町内会に加入し、町内清掃行事に参加している。保育園児が参観にみえ、歌を歌って貰ったりプレゼント交換したりなどしている。また、毎年中学生の職場体験を受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が認知症アドバイザーとして地域の人々に認知症について支援や理解してもらえよう活動をしている		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度開催し、家族の方々民生委員の方、行政、利用者の方職員管理者、代表で様々な意見を持ちよりサービス向上に向けている	利用者、家族、民生委員、町内会長、包括支援センター、職員、管理者で構成し2カ月ごとの開催を目指している。ホームへ寄せられた相談、期間中に行った行事の報告、事故の報告、待機状況など実情を報告し、参加者からご意見を頂いている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員地域づくり連絡会より介護相談員が月に2日事業所訪問があり、サービス向上に協力してもらっている	介護相談員の受け入れや、事故報告、入居者の生活状況などの相談に乗って貰うなど密接に連絡を取っている。	
あ	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員を設け、月2回身体拘束について話し合いをしている。センサー、職員に気配りをし全員でケアに取り組んでいる。	身体拘束はしないよう話し合いを重ねている。玄関の施錠はしていないので、出入口が見やすいようモニターの位置を工夫し、他の用事をしている時でも見守りがしやすくなった。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修には参加をし、委員を設けているので報告伝達を行い職員全員で取り組みを行っている		

グループホーム バラの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修には参加をし、制度の勉強をしている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明、制度海底時には各関係者(ご家族様)には運営推進会議や文書でご理解を頂けるようにしている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で頂いた意見を会議時に話し合い向上に繋げ、介護相談員と意見交換を図り改善等を行っている	声かけの回数を増やしてほしいなど家族が訪問された際寄せられた希望や、運営推進会議で出された意見を運営に生かしている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回全体会議、ユニット会議で機会を設けている	全体会議やユニット会議で意見が出せるようにしている。新入職員も発言しやすいよう配慮している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日々、話し合いをしたり休憩室に向上心を持ちあげるような本を設置し貸出をしている		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	キャリアパスを利用している。研修は業務とし交通費参加費等すべて事業者が提供し学びやすい環境にしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	スタッフ交流会に毎月参加をし交流を深めながら勉強をしている		

グループホーム バラの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>ご本人と話し合いを設け、またセンター方式を用いて想い等を引き出していき、その先に安心した生活が送れるように努力をしている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族と話し合いを設け要望等を聞いている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご相談が有った時には期間を空けず検討会を開き対応をしている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>職員、利用者限らず助け合い生活を過ごせるような場面を作っている</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>会話をしながら一緒にお茶をしたりその中でお互いの役割を見つけ居居して貰えるご家族が増えてきている</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>職員と出向いたり、時には来て頂いたり可能な限り行っている</p>	<p>県外の入居者も家族が分担して訪問される方もありますが、町内の方はよく訪ねて来られる。ホームのニュースなど送ると家族が喜ばれ入居者への思いを深くする一助となっている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>職員が利用者同士が関わりあえるような場面を作っている</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>連絡を取り合ったり、立ち寄ったりしている</p>		

グループホーム バラの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者、家族の想いを可能な限り情報収集して検討している	お一人ひとりの希望や意向の把握を、聞き取りや日々の観察からくみ取るようにしている。アルコールも希望する方は週3回まで飲酒出来る。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を用いてアセスメント活用している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	記録や申し送りノートを活用し情報を共有している		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3か月毎の見直し、ご本人と話し合いなどで必要に応じた時などに行っている	サービス担当者会議を開き3か月ごとに見直ししている。計画は担当者がモニタリング表に基づき評価し、家族や利用者の意見を大切に直し作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	3か月毎の見直し、必要に応じた時ニーズに沿ったプランを立てるようにしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人一人のベースに合わせた生活が送れるように努力をしている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者が一人で歩いていて近隣のお店の前を通ると連絡してくれるよう協力があり、本人が望まれる方向に進まれても良いように職員は見守りしている		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医療連携を図っており、週1日または何かあれば必要に応じて往診があります	毎週かかりつけ医の往診があり、健康状態は良く把握されている。必要に応じ往診される。	

グループホーム バラの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携を図っており、かかりつけの医療機関の看護師が何かあれば必要に応じて医師の指示にて対応してくれている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関でカンファレンスに参加し話し合いを行っている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人の意向をご家族医師を交え話を行っている	ご本人ご家族の意向を医師を交えて話し合っており、職員もターミナルケアについて研修している。点滴の必要がある場合、医院より看護師が派遣される。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時のマニュアルは各ユニットに設置しているが定期的な訓練は行われていない		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	スプリンクラー設置をしている。定期的に避難訓練を事業所内で行っているが地域の協力体制での避難訓練は行っていない	スプリンクラーを設置している。年2回消防署に参加して貰い避難訓練を実施している。運営推進会議と並行して実施することもある。	地域へ呼びかけ近隣の方の参加が期待されます。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に心がけている。また万一そのような場面が見られたら職員同士声かけをしている	入浴、排泄、更衣の介助はドアを開けて行う。入室する時は、声をかけ断ってから入るなど気を付けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々、自己決定が出来るような声かけを心がけている。接遇委員からの月目標にも掲げている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースに合わせるよう気持ちやどうしたいか？想いを聞きながら支援するようにしている。無理強いをしないようにしている		

グループホーム バラの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的美容院に行かれる方、逆に来てもらうとご本人の望むヘアスタイルを一人一人聞いている。髪染めも行ったりお化粧品が出来るよう支援をしている		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に食事作りをしたり片づけをしたりと、一人一人の出来ること出来ないところを見極め一緒に行うようにしている。食材購入に利用者で行くようにしている。	食事は刻み食、ケータリング、魚はだめ、肉はだめ、どんぶりだめ、混ぜご飯だめなどいろいろなおられる。それぞれに不都合なものは代替えを用意する。お買い物に行ける方は近くのスーパーへ一緒に行く。外食を取り入れたり、お正月、ひな祭り、誕生会など季節の行事食を作り変化をつけるようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	家庭料理を中心に一汁三菜を心がけている。肉食魚食を交互に作りバランスを考え、水分は摂取しやすいように寒天ゼリーを100mgずつ毎食おやつ時に提供し水分確保を行っている		
42		口腔内の清潔保持	毎食口腔ケアを行い清潔保持に努めています		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録記入は行い、定期的なトイレ誘導をし排泄状況を把握するようにして、オムツ リハビリパンツ・パット 下着 と自立に向けた支援を行えるよう努力をしている。排泄パターンを知るために24時間シートを活用する時もある	全職員がオムツを外すことをめざして定期的なトイレ誘導をしている。24時間シートも活用しトイレの自立が出来るよう努力されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便記録表に毎日記入し便秘予防として寒天ゼリー、センナ茶を食してもらい、薬に頼らず便秘回避予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人の入浴したい時を確認し職員で協力しながら行っている	入浴は週2~3回。仲良しが一緒に入られることもある。入浴の嫌いな方は声かけの工夫をしたり、いつもと違う職員が声かけするなど工夫してなるべく入浴して貰う。朝夕必ず更衣する。熱がある時以外、寝たきりの方も着替えるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	眠りやすい環境作りを心懸けている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご本人、ご家族、医師と話し合いなるべく薬を最小限に出来るよう話し合いをしている。その為に、日々の状況を記入し変化や気付きを記入報告するようにしている。服薬時には職員2人確認を行い事故の内容に行き提供している。職員が担当利用者の薬内容を把握するよう努めている。		

グループホーム バラの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人に尋ねたり生活歴より引き出し、料理の好きな方、カラオケが好きな方、晩酌を好む方などそれぞれになるべく継続して頂けるよう支援をしている		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	散歩の好きな方はほぼ毎日されたり、花見や観劇、外食等を季節ごとに行っています。その時にはご家族に事前連絡を一緒にして頂くこともあります	ホームの近くに公園があり、お天気の日には歩ける方は散歩に行く。お花見はお城の桜、鞆のひな祭り、夏の花火大会など季節ごとの外出も行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	理解されている方は、ご自分で持たれています。買い物の際にはご自分で支払いが出来るよう支援しています		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	「かけてほしい」と言われる方はおかけしていますが、ご家族の協力でご自分よの電話をもたれ必要に応じて支援をしています		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同スペースには明るさ、温度に気をつけています。廊下は夜間の不安さを考えセンサーで明かりがつくようにしています	最初からグループホーム用に設計され、各居室から居間に出来るようになっている。建物中央にある坪庭が明かり取りになっており、室内も程良い落ち着きがありゆったりできる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを3席設置しており利用者同士で交流が持てるようにしている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、今までの生活で馴染みの物をいくつか持参して頂くようにし、寝具なども購入せず浸かっておられた物をなるべく持って来て頂く様にしています	居室は全室とも窓が十分にあり明るい。家庭で使っておられたものをもt込むことが出来、お一人ひとりの好みで居室がしつらえられている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩行同線の確保		



グループホーム バラの家

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム バラの家

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム バラの家

作成日  年 月 日 作成日 平成 23 年 1月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	19	ご本人と家族の交流	面会の頻度を増やす	手紙、電話、行事参加	一年
2	18	利用者の把握	見極め観察力	担当者からの情報収集	一年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。